

私が育った長野県の本曾町は「木の国」の別名で知られ、総面積のおよそ95%を山林が占める緑豊かな山間の町です。しかし、子どもの頃の私には「山＝田舎」という意識があり、その本当の美しさが目に入っていませんでした。

谷間の町は目の前がすぐに山、日照時間も短く、当時は「この壁はどうにかならないのか」と思い、コンプレックスを感じていたほどで、山に関する楽しい思い出といえば、父の仕事を手伝ったことくらいで

## 緑のエッセイ

が後に国鉄に就職した時も同じで、まるで私にずっとヘルメットたちがついてまわっているような気がしました。

そんな私が山や森林について考えるきっかけになったのが、3年前に出演した「さくら道」というテレビドラマでした。これは太平洋と日本海を桜で繋ごうと、亡くなるまでに約2000本の桜を植えた佐藤良二さんの物語です。この作品を通して、子どもの頃、強固な壁のように感じていた山や森林が、実は人の手が入らなければ維持



していけないものだと知りました。

した。シイタケの原木栽培で、父が穴を開けた木に拳銃のような道具で次々に種菌を植えていく作業は楽しく、夢中になって手伝ったのを覚えています。それでも、夕方になって先にひとり家で帰される時は心細く、山に対する恐れは更に自分に相応しくない場所だと思わせていました。

進学した高校では林業科だったので、これも意識して選んだわけではなく、入学してから、ヘルメットや軍手が必要な事を知って、驚いていたくらいです。これ

森林を守っていかなければならないという思いは、今回出演した映画「道～白磁の人～」で一層強まりました。私が演じた林業試験所の技師・町田が、主人公の浅川巧の朝鮮五葉松を植えようという提案に「鉄道の枕木にも使えるからな」と賛同するシーンがあるのですが、この台詞がまるで故郷の山を離れた現実の私と、山とともに生きることを選んでいたかも知れない私を引き合わせてくれたように感じました。こ

の作品を通して、今の日本が置かれた状況を考えながら、森林を再生させるために何かをしなければならぬと感じています。木は植えてすぐに結果が出るものではありません。また、森林の維持にはさまざまな人間による手入れが必要です。子どもたちのためにも、いま、私たちが未来に向けた森林づくりに取り組まなくてはならないと思います。

昭和38年、長野県本曾郡本曾福島町生まれ。  
昭和57年、長野県本曾山高等学校現長野県本曾青峰高等学校（林業科）卒業し、国鉄長野鉄道管理局に就職。  
平成3年、竹中直人監督の映画「無能の人」に照明助手として参加後、役者兼スタッフとして数多くの作品に携わる。  
平成13年、ドラマ「HERO」で人気を得、以降、映画・ドラマ・CM等で幅広く活躍中。

映画「道～白磁の人～」で田中要次さんが演じた林業試験所の町田技師は、主人公・浅川巧の上司であり、支援者。田中さんは、町田技師を山に携わって生きる道を選んだ「もうひとりの自分」と感じたと語っています。



映画「道～白磁の人～」関連情報は13ページ、18ページにも掲載しています。